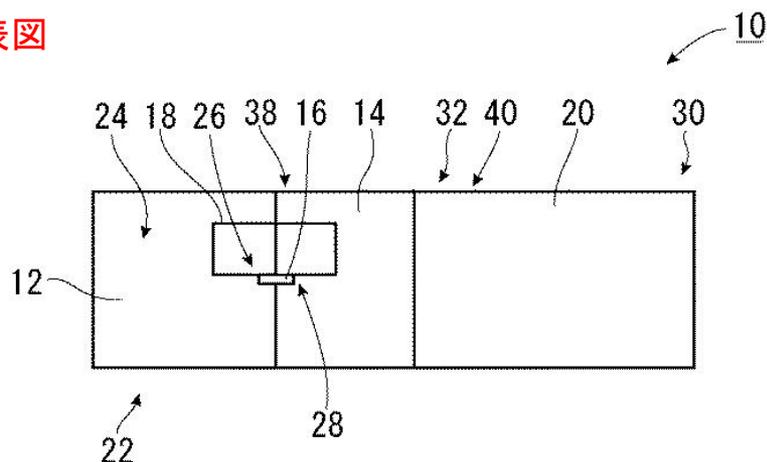


金属製品

製造工程も削減可能な厚みの小さいRFID装置

発明の名称	RFID装置		
出願人/権利人	株式会社ハリーズ	発明者	西川 良一
出願日	平成29年9月15日	出願番号	2017-178265
公開番号	2019-54460	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図



- 10 RFID装置、12 誘電体、14 導電体層、16 ICチップ
 18 アンテナ、20 導電部材、22 (誘電体12の)一方の面
 24 (誘電体12の)他方の面、26 (アンテナ18の)一端
 28 (アンテナ18の)他端、30 (導電部材20の)一端部
 32 (導電部材20の)他端部、38 (導電体層14の)一端部
 40 (導電体層14の)他端部

発明の概要

金属体に貼り付けて使用される厚みの小さいRFID装置

特徴

本発明は金属体に直接または間接的に取り付けで使用できるRFID装置である。金属体の表面に取り付けられる誘電体と、誘電体に配置された導電体層と、情報が記憶可能で導電体層に接続されたICチップと、ICチップに接続されたアンテナと、一端部が金属体に接続され、他端部が導電体層に接続される導電部材が備わっている。この構造により厚みが小さくでき、誘電体の所定位置に導電体層の一部が重なるように配置すれば、構成を簡単にして製造工程を少なくできる。RFID装置をリーダー／ライターに近づけると、アンテナがリーダー／ライターからの電波を受信する仕組みである。

関連分野

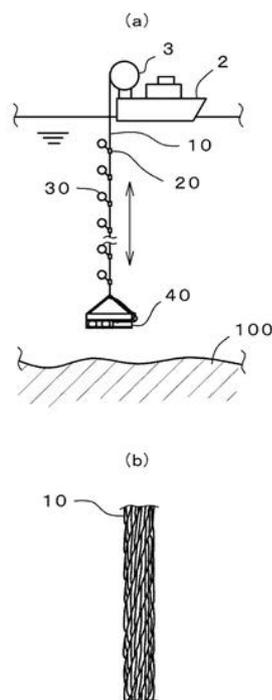
電子部品・素子、電気機械、放送・通信

業務用機械

吊り下げ部材の破損を防止する海底資源採掘収集装置

発明の名称	海底資源採掘収集装置		
出願人/権利人	夢育株式会社	発明者	下村 治夫
出願日	平成29年9月25日	出願番号	2017-183735
公開番号	2019-60087	特許番号	6336190
法的状態	登録中		

代表図



- 2 母船
- 3 ドラムローラ
- 10 ワイヤ
- 20 浮体連結具
- 30 浮体
- 40 海底資源採掘収集ユニット
- 100 海底

発明の概要

海底資源の採掘と収集を行う海底資源採掘収集装置

特徴

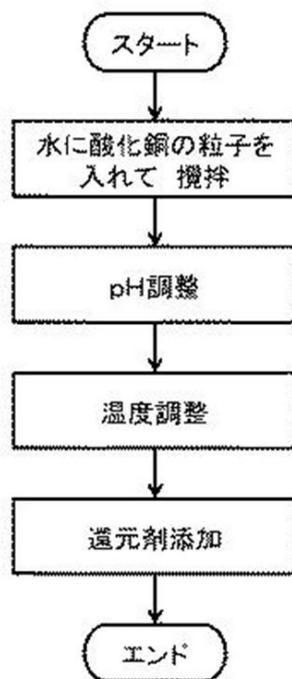
本発明は深海底に分布する海底資源を効率的に採掘収集可能な海底資源採掘収集装置である。海底資源の採掘収集を行う海底資源採掘収集ユニットと、海底資源採掘収集ユニットを母船から海底まで吊り下げるためのワイヤーを備えている海底資源採掘収集装置である。ワイヤーには所定の間隔をあけて、浮体連結具を介して複数の浮体を配置しているので、吊り下げ部材の破損が防止できる。また、浮体連結具は着脱自在なので作業性が良い。本発明は海底資源の採掘収集分野で有益な効果を得られるため、海底資源の採掘収集分野における産業上の利用性が高い。

関連分野

エネルギー、建設・土木

発明の名称	粒子及び粒子の製造方法		
出願人/権利人	古河ケミカルズ株式会社	発明者	南 勇祐、安部 賢治
出願日	平成29年9月26日	出願番号	2017-185256
公開番号	2019-59982	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図



発明の概要

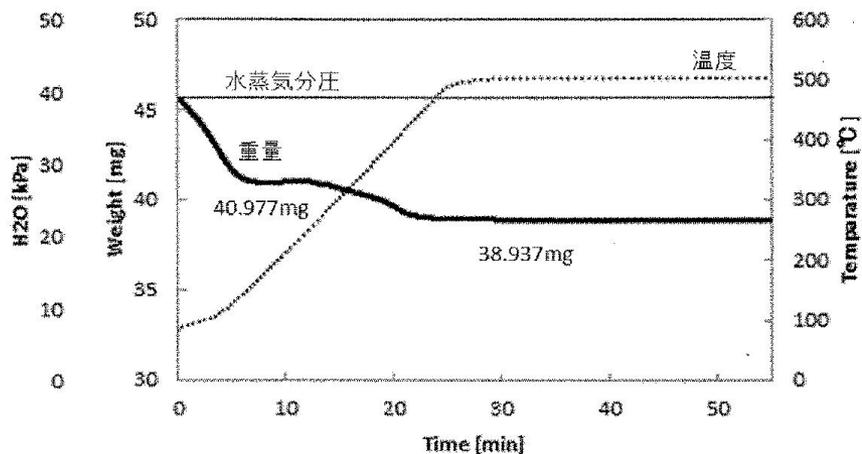
多孔質の銅を含む粒子及び粒子の製造方法

特徴

本発明ではCO₃を0.5重量%以上含有している酸化銅の粒子を水に入れて攪拌し、この水のpHをアルカリに調整する。次いで、原料粒子を含む水を、例えば65℃以上、好ましくは70℃以上に加熱してから、この水に還元剤を投入する。還元剤は、例えばヒドラジン水溶液である。この還元剤により酸化銅は銅に還元され、その結果、金属銅を主成分とする粒子が生成する。粒子は銅を95重量%以上含んでおり、複数の一次粒子が集まることにより形成されており、かつ、空隙を有している平均粒径が100μm以下である。銅粒子を多孔質にすると、比表面積が増大するため、その用途が増えるメリットがある。

発明の名称	炭素を含有する材料の回収方法およびシステム		
出願人/権利人	株式会社KRI	発明者	東 隆行、矢野 都世、久 正明、阪井 敦、池内 武志
出願日	平成29年10月4日	出願番号	2017-194130
公開番号	2019-64886	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図



水蒸気ガス化温度500°Cにおける
ポリプロピレングリコール吸着活性炭(評価試料1)のTG曲線

発明の概要

2種以上の炭素を含有する複合材料から1種以上の炭素を含有する材料を回収する方法

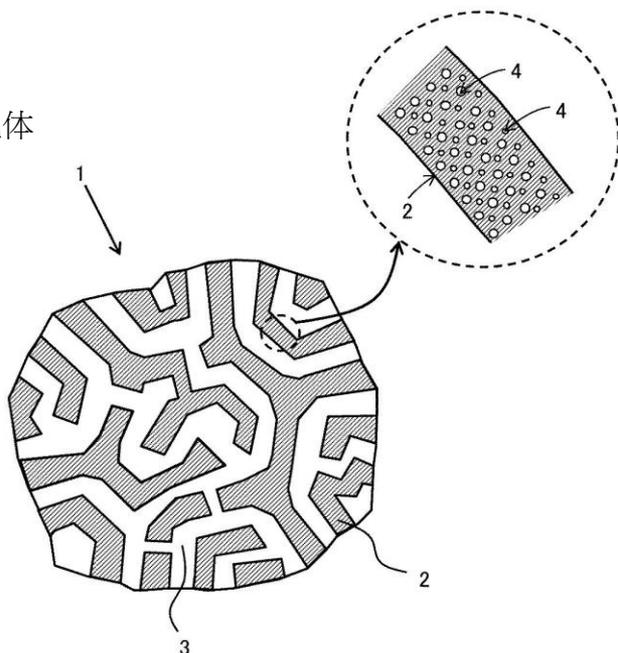
特徴

2種以上の炭素を含有する複合材料に水蒸気を含有する高温ガスを作用させて、1種以上の炭素を含有する材料を水蒸気と反応させガス化することにより、複合材料から1種以上の炭素を含有する材料を回収する方法およびシステムである。産業上の事例としては、炭素繊維強化プラスチックや有機物質を吸着した活性炭などがある。炭素繊維強化プラスチックでは、本特許の方法やシステムにより、高価な炭素繊維を分離回収して再使用可能である。有機物質を吸着した活性炭では、吸着した有機物質のみをガスができるので、活性炭を再生して再使用できる。

発明の名称	粒状多孔体に接触させて反応させる反応方法		
出願人/権利人	株式会社エスエヌジー	発明者	宮本 利一、白 鴻志
出願日	平成28年6月29日	出願番号	2017-526406
公開番号	WO2017/002871	特許番号	6501282
法的状態	登録中		

代表図

- 1 : 粒状多孔体
2 : 骨格体
3 : 貫通孔
4 : 細孔



発明の概要

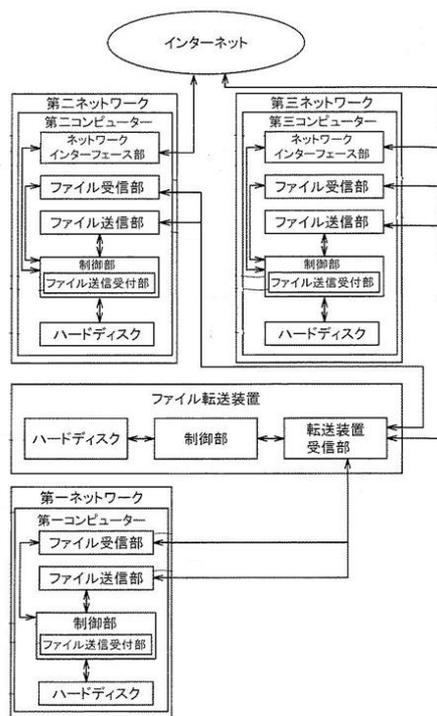
金属イオン・低分子化合物等の反応対象を含む液体を粒状多孔体に接触させて反応させる方法

特徴

3次元連続網目構造の無機化合物からなる骨格体を有し、骨格体の間隙に形成された貫通孔と、骨格体の表面から内部に向けて延伸する表面に分散して形成された細孔からなる2段階階層的な多孔構造を有する粒状多孔体に、金属イオン及び低分子化合物等の反応対象を含む液体を接触させて反応させる方法である。本発明は、吸着、イオン交換、錯形成、触媒反応等の金属イオンの反応対象を含む液体を粒状多孔体に接触させて反応させる種々の反応方法や、フィルター、吸着材、反応材、固相触媒等の液体と接触させる方法、特に溶液中の金属の吸着方法及び回収材に利用可能である。

発明の名称	ファイル転送システムおよびファイル転送装置		
出願人/権利人	株式会社プロット	発明者	菟田 貴行
出願日	平成30年2月16日	出願番号	2018-026263
公開番号	-	特許番号	6502542
法的状態	登録中		

代表図



発明の概要

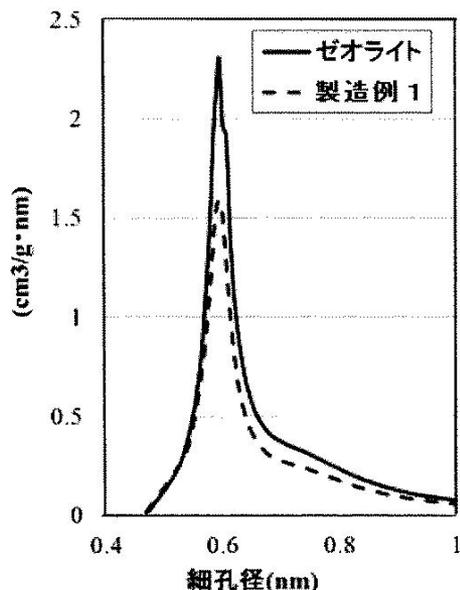
高い安全性を維持しつつ、効率的に電子ファイルの送信を行えるファイル転送システム

特徴

本発明のファイル転送システムは、送信元端末と受信先端末のそれぞれが、いずれのネットワークに属するものであるかが判断可能である。この構造により、端末が属するネットワークに応じて無害化処理やファイルの暗号化の実行を制御できる。そして、送信元端末から複数のネットワークへ電子ファイルを送信できる。このため、高い安全性を維持しつつ、効率的に電子ファイルの送受信を行える。また、暗号化された受信電子ファイルを生成することで、第三者が受信電子ファイルを取得したとしても受信電子ファイルの内容を簡単に把握できなくなるメリットがある。

発明の名称	炭化水素液体燃料の製造方法		
出願人/権利人	株式会社レボインターナショナル	発明者	傳 慶一、東 裕一郎、荘所 大策
出願日	平成29年1月31日	出願番号	2018-520347
公開番号	WO2017/208497	特許番号	-
法的状態	出願中		

代表図



触媒Aとゼオライトの細孔の分布

発明の概要

液体燃料として優れた炭化水素液体燃料、炭化水素液体燃料の製造方法

特徴

本発明は原料油、例えば油脂類およびバイオマス乾留油、または石油中の炭化水素等を接触水素化分解することにより得られる。低温流動性に優れ耐酸化性を有する等の液体燃料として優れた炭化水素液体燃料と、その製造方法、及び炭化水素液体燃料の製造装置である。各種の炭化水素液体燃料の原料を、新規に工夫された触媒の存在下、常圧ないし1.0MPa以下の低圧で、接触水素化分解を行うことにより、灯油あるいは軽油相当の液体燃料を経済的に製造できる。得られた炭化水素液体燃料は、軽油相当の燃料又は灯油相当の燃料として好適に利用できる。